Japan Bowling Congress

JBCnews

since1970

【毎月１回１日発行・１部20円】

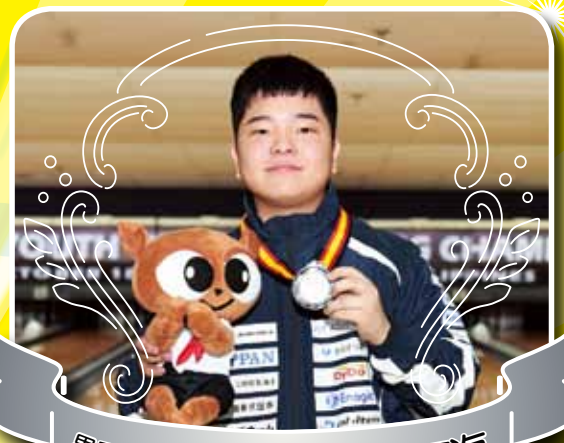
JBCニュース
第553号　平成２９年１２月１日
昭和50年５月19日第三種郵便物認可

発行所
公益財団法人 全日本ボウリング協会
東京都港区芝４－４－10
サンライズ長井ビル8F 03(3452)4501
http://www.jbc-bowling.or.jp/

JBC

つぎは 金メダル!

オールエベンツ 金 シングルス 銅 泉宗 心音



男子シングルス 銀 羽ヶ崎 匠海

女子チーム 銅 泉宗・坂井・水谷・藤田

第19回 アジアユース選手権大会

今大会で７名のユースＪＡＰＡＮメンバーが国際大会デビュー。悔しい結果に終わった種目もあれば、ポテンシャルの高さが表れた場面もありました。一方で、チーム唯一の海外経験者は金メダルを含め、３種目で表彰台に。次は自分も…泉宗の活躍は、後に続く者たちの勇気になったはず。そして泉宗自身も、世界選手権の大舞台に満を持して挑みます。

© ABF

index

2～3面　第46回全国都道府県対抗選手権大会
4面　第50回全日本新人選手権大会
5面　第55回全日本大学選手権大会
6～7面　第19回アジアユース選手権大会
ジュニアジャパン選抜選手強化合宿
8面　ナショナルチーム通信、TOP BOWLER

JBC

かわさき

デザイン：川崎総合科学高等学校 デザイン科２年　小島　愛

文部科学大臣杯 第24回 全国高等学校対抗ボウリング選手権大会

平成29年12月22日(金)～24日(日)

会場：川崎グランドボウル（公競No.114-023）BW52(2F)

主　催：(公財)全日本ボウリング協会・(公財)川崎市スポーツ協会
共　催：川崎市・川崎市教育委員会
後　援：スポーツ庁・(公財)全国高等学校体育連盟・(公財)神奈川県体育協会・神奈川県高等学校体育連盟
川崎地区高等学校体育連盟・全国ボウリング公認競技場協議会・神奈川新聞社・tvk(テレビ神奈川)
協　力：(公社)日本ボウリング場協会・川崎グランドボウル・読売新聞川崎読売会・
川崎ホテルパーク・パールホテル川崎・ホテルスカイコート川崎・川崎セントラルホテル
協　賛：川崎アゼリア(株)
主管運営：神奈川県ボウリング連盟　※この事業は公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団の助成を受けて実施しています。

ＪＢＣニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています　スポーツくじ toto BIG

連盟トピックス

スポーツ庁・生涯スポーツ功労者
ボウリングから2名

北海道連盟
荒川名誉会長

山梨県連盟
河野会長

スポーツ庁の平成29年度生涯スポーツ功労者に、北海道ボウリング連盟の荒川隆志名誉会長と山梨県ボウリング連盟の河野隆昭会長が選ばれ、文部科学大臣より表彰されました。

JBC元理事でもある荒川氏は北海道連盟で会長等要職を歴任し、北海道におけるボウリング普及に貢献されました。河野氏は山梨県連盟の県体育協会加盟に尽力され現在に至ります。心よりお祝い申し上げます。

2018年版JBC手帳
12月より販売開始

2018年版JBC手帳を12月より販売開始します。

2019年3月までのスケジュールページには、アベレージ管理に便利なスコア記入欄を完備。JBC主催大会・行事日程一覧などの情報が満載された、ボウラー必携の1冊です。

賛助会員、特別法人・個人会員紹介

〈平成29年11月1日以降登録者〉

【特別個人会員】

▽秋田県　金田勝年（連盟会長）、布目浩嗣（同理事長）、佐藤順一（同副理事長）、遠藤博（同）、北嶋憲一（同）、三浦真、鈴木博幸、伊藤照子、伊藤渉、阿部徹

▽山形県　吉村和武（連盟会長）、石黒覚（同副会長）、小野仁（同）、石塚賢二（同理事長）

▽福島県　亀岡偉民（連盟会長）、伊藤寛（JBC理事、連盟理事長）、垣内泰（連盟副理事長）、齋藤憲治（同）、根本長徳（同）、大河内未来

〈順不同・敬称略〉

限定生産のため数に限りがあります。購入ご希望の方は所属連盟を通じてお申込みください。

【JBC手帳仕様】
○サイズ　縦18・5×横9cm
○ビニールカバー付属

イベントカレンダー 12月＆1月

▽11月24日(金)～12月4日(月)　世界選手権大会2017男女大会　アメリカ・ラスベガス

▽12月6日(水)～7日(木)　JBC公認ドリラー有資格者研修会（ブロンズコース）　神奈川・スポルト八景ボウル

▽12月8日(金)～9日(土)　JBC公認ドリラー有資格者研修会（シルバーコース）　神奈川・スポルト八景ボウル

▽12月22日(金)～24日(日)　文部科学大臣杯第24回全国高等学校対抗選手権大会　神奈川・川崎グランドボウル

▽1月9日(火)～14日(日)　全日本ナショナルチームメンバーウィンターキャンプ　沖縄・エナジックボウル美浜

▽1月19日(金)～21日(日)　第46回全日本クラブ対抗選手権大会　福岡・博多スターレーン

JBC事務局

年末年始
業務休止のお知らせ

12月26日(火)　仕事納め
12月27日(水)～1月4日(木)　冬季休業
1月5日(金)　仕事始め

訂正

JBCニュース10月号、第3回世界シニア選手権大会の記事中で、会場地に誤りがありました。正しくはドイツ・ミュンヘンです。

JBCニュース11月号、日本スポーツマスターズ2018札幌大会のブロック割当表について、兵庫県が記載されていませんでした。お詫び訂正いたします。

平成29年度
各連盟公認競技会・リーグ登録数

平成29年11月30日 現在

地区名	連盟	競技会 公認件数	競技会 開催実数	リーグ 公認件数
北海道地区	北海道	32	62	5
東北地区	青森	33	46	
	岩手	22	53	
	宮城	29	92	
	秋田	18	37	
	山形	21	54	2
	福島	19	3	
関東地区	茨城	18		
	栃木	11	28	
	群馬	18	56	7
	埼玉	38	90	
	千葉	25	68	17
	東京	9	14	
	神奈川	31	60	25
	山梨	17	32	
北信越地区	新潟			
	長野	11	37	2
	富山	22	86	1
	石川	19	40	13
	福井	9	2	
東海地区	静岡	36	120	14
	愛知	59	177	3
	三重	32	69	
	岐阜	38	60	
関西地区	滋賀	37	133	
	京都	55	50	14
	大阪	38	7	8
	兵庫	26	30	13
	奈良	14	15	
	和歌山	14	11	
中国地区	鳥取	11	18	
	島根	5	6	1
	岡山	51	85	1
	広島	15	15	4
	山口	13	20	18
四国地区	香川	19	28	1
	徳島	10	20	1
	愛媛	9		2
	高知	1	6	
九州・沖縄地区	福岡	37	98	63
	佐賀	8	10	10
	長崎	22	43	30
	熊本	20	35	58
	大分	16		11
	宮崎	28	81	13
	鹿児島	23	63	
	沖縄	19	51	18
全日本学生連合		13	2	6
総計		1,071	2,113	361

第46回 全国都道府県対抗選手権大会

内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯
福井しあわせ元気国体ボウリング競技プレ大会

内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯第46回全国都道府県対抗選手権大会が11月9日(木)から12日(日)にかけて、福井県福井市のスポーツプラザWAVE40（公競No.1202-012）で開催された。来年に迫った福井しあわせ元気国体のプレ大会に、全国から176名の代表が集まった。

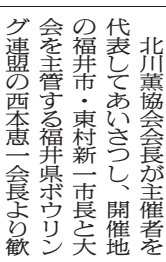
文部科学大臣杯が授与される選手権者決定戦では、斉藤翼（茨城）と入江菜々美（岐阜）がともに初優勝。4種目の入賞成績による団体総合では、静岡県が43年ぶり3度目の優勝を果たして内閣総理大臣杯を獲得した。

北川会長

開会式

大会初日の11月9日(木)、16時15分に開会式をスタート。参加チームの入場行進に続き、各杯の返還セレモニーが行われた。前回大会の選手権者（福岡・岡本美月／徳島・坂本政武）からは文部科学大臣杯が、団体総合優勝の愛媛

福井市東村市長


福井県連盟西本会長

はぴりゅう

宣誓役は橋本選手

競技

混合2人チーム戦

福岡B（松田・高木）は初めの2ゲームで436・440とビッグゲームを連発。前半1252としトップに立った。2位の青森A（鳥谷部・西山）は11ピン差で、3位争いは5チームがひしめく大混戦となっていた。

後半、A組の福岡Bはマイナスゲームも385に抑える安定感で1224をマーク。トータル2476で首位を守り、B組の結果を待つことに。そのB組では青森Aがスコアを伸ばせず優勝戦線から離れてしまう。代わって神奈川B（菅野・川田）と静岡A（鈴木・山本）が浮上してきた。2ゲーム目には神奈川Bが460をマークし、この時点での福岡Bの点数に2ピン差と並んだ。しかし最終ゲームはプラスに乗せられず、福岡Bが逃げ切るかたちで優勝を決めた。

2人チーム戦優勝　福岡B

混合2人チーム戦　入賞者

混合4人チーム戦

4人全員10代の愛知A（熊澤・佐藤・水谷・高平）が1ゲーム目から900UPと好調。前半2528までスコアを伸ばしてトップに立った。2位の大阪A（中野・武本・武部・濱田）は2501。この都道府県対抗選手権を幾度も制してきたベテランメンバーだけに、好位置につけてきた。トップ2チームはともにA組での競技。1ゲーム目に大阪Aが864と打ち上げたのに対し、愛知Aは735。大阪Aは逆転した上に102ピン差をつけた。続く2ゲーム目も883とし、234ピンのセーフティーリードができた。最終ゲームには愛知Aも885と意地を見せたが、大阪Aが余裕を持って優勝を決めた。

4人チーム戦優勝　大阪A

斉藤　翼	男子選手権者
	茨城県　26歳
使用ボール	Infinite One(15p2oz)
公認ドリラー	増田浩治　（公認No. 1361-08）

入江菜々美	女子選手権者
	岐阜県連盟
全日本ナショナルチームメンバー	20歳
使用ボール	Gold Revolt(15p)
公認ドリラー	山川尚晴　（公認No. 1470-24）

男子選手権者決定戦

チーム戦2種目の個人スコア上位20名による選手権者決定戦。男子でトップ通過したのは斉藤翼（茨城）だった。12ゲームで2658の高スコアを、ローゲームが199という安定感でたたき出した。2位の和田翔吾（和歌山）は大会ハイシリーズとなる778を含む2648。3位の高木遼介（福岡）は和田と103ピン差をつけられ、上位2人が抜け出すかたちとなった。

スコア持込みで競う決定戦、まず前半は斉藤が669、和田も662でほとんど差がつかなかった一方、一騎打ちの様相はさらに高まった。後半も和田が9ピン差まで迫れば、直後に斉藤が21ピン差に戻して緊張状態が続いた。最終ゲーム、斉藤は229を打って突きはなし、ビッグタイトルを獲得した。

混合4人チーム戦　入賞者

文部科学大臣杯は斉藤&入江

静岡 鮮やか逆転劇
43年ぶりの総合優勝

団体総合

混合2人チーム戦は福岡が優勝で10ポイントを獲得。しかし神奈川が2位と3位に入ったことで合計12ポイントとし、団体総合の順位でトップに立った。続く混合4人チーム戦に入賞したチームのうち、2人チーム戦も入賞したのは静岡のみ。神奈川は12点のままで首位を守り、大阪と福岡が10ポイントで並んだ。

最終日、選手権者決定戦で優勝したのは茨城と岐阜。茨城は2人チーム戦の5位と合わせて12ポイントで、岐阜も4人チーム戦4位との合計は13ポイント。和歌山は男子の2位・3位を独占して12ポイントを一挙に獲得。合計14ポイントで総合3位に入った。そして神奈川は男子15ポイントまで伸ばしたが、優勝には届かなかった。

団体総合を制したのは静岡。チーム戦2種目を終えた時点では9ポイントだったが、選手権者決定戦で女子2位・4位・男子5位と3名が入賞。総合計21ポイントで大逆転を決めた。

静岡は第2回・第3回で連覇して以来、43年ぶりの団体総合優勝で内閣総理大臣杯を獲得した。準優勝と第3位には10月のえひめ国体で男女総合を制した神奈川と、同じく女子総合優勝の和歌山が入賞し、実力を改めて示した。神奈川は全国知事会会長杯を、和歌山は大会会長杯を授与された。

男子選手権者決定戦　入賞者

女子選手権者決定戦　入賞者

内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯
第46回全国都道府県対抗ボウリング選手権大会
成績表

2017年11月9日（木）～12日（日）
参加　36団体（男子88・女子88名　合計176名）　福井・スポーツプラザＷＡＶＥ４０

混合２人チーム戦（2×6G）

優勝	福岡Ｂ（松田未佑・髙木遼介）	2,476
準優勝	神奈川Ｂ（菅野沙織・川田光一）	2,459
第３位	神奈川Ａ（佐藤悠里・佐々木智之）	2,423
第４位	静岡Ａ（鈴木波流・山本　将）	2,421
第５位	茨城Ｂ（山田千晶・斉藤　翼）	2,398
第６位	静岡Ｂ（野島はるな・藤村隆史）	2,381

混合４人チーム戦（4×6G）

優勝	大阪（中野麻希・武本真明・武部公英・濱田常男）	4,998
準優勝	愛知Ａ（熊澤希香・佐藤宇宙・水谷秋穂・高平沙也斗）	4,899
第３位	静岡（鈴木波流・山本　将・野島はるな・藤村隆史）	4,855
第４位	岐阜（入江菜々美・吉村直人・谷原美来・夏目智樹）	4,723
第５位	和歌山（山崎　京・川崎未来・赤田稀歌・和田翔吾）	4,681
第６位	京都Ａ（鍵野礼子・内藤　茂・山崎多鶴・内藤慎之介）	4,657

選手権者決定戦（18G）

《男子》

優勝	斉藤　翼（茨城）	3,954
準優勝	和田翔吾（和歌山）	3,899
第３位	川崎未来（和歌山）	3,817
第４位	佐々木智之（神奈川）	3,810
第５位	藤村隆史（静岡）	3,797
第６位	武本真明（大阪）	3,763
個人ﾊｲｹﾞｰﾑ	佐々木智之（神奈川）	278
個人ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	和田翔吾（和歌山）	778

《女子》

優勝	入江菜々美（岐阜）	3,554
準優勝	鈴木波流（静岡）	3,549
第３位	前土佐　澪（奈良）	3,526
第４位	野島はるな（静岡）	3,513
第５位	鳥谷部エイ子（青森）	3,506
第６位	鹿山まり子（徳島）	3,486
個人ﾊｲｹﾞｰﾑ	西村あけみ（兵庫）	278
個人ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	武部公英（大阪）	653

内閣総理大臣杯得点

優勝	静岡県	21点
準優勝	神奈川県	15点
第３位	和歌山県	14点

女子選手権者決定戦

チーム戦を終えてアベレージ200を超えたのは入江菜々美（岐阜）のみ。2433にまとめると、鈴木波流（静岡）、野島はるな（静岡）の2位集団に6マークのリードを作った。

ところが入江は決定戦の前半で痛恨の535。60OUPした野島に逆転を許してしまう。入江は野島と14ピン差、3位の鈴木とも7ピン差となって、優勝争いは最後の3ゲームに持ち越された。後半1ゲーム目、高校生の鈴木がトップに。野島は7ピン差に留まったが、入江は25ピンとやや差がついた。鈴木が200UPを連発する一方、野島は調子が上がらない。入れ替わるように、222を打った入江が鈴木と7ピン差まで追い上げた。そして最後はスコアを落とした鈴木を入江が逆転。5ピン差で優勝を奪い、昨年優勝の雪辱を果たした。

個人H／G、H／S（左から）西村、武部、佐々木、和田

ガイド

全国都道府県対抗選手権大会は、次年度の国民体育大会ボウリング競技のプレ大会という位置づけ。今年度は福井しあわせ元気国体の会場で開催された。

1チームは男子2名・女子2名の4名編成で、混合2人チーム戦、混合4人チーム戦、男子・女子選手権者決定戦の4種目を行う。

チーム戦は人数×6ゲームのスコアで順位を決定。選手権者決定戦は2人・4人チーム戦での個人成績上位20名が進出し、6ゲームを投球。予選スコアとの合計総得点で争い、優勝者には文部科学大臣杯が授与される。

各種目の入賞団体に順位に応じて付与されるポイントの合計で団体総合の順位を決定し、優勝は内閣総理大臣杯、準優勝は全国知事会会長杯、第3位には大会会長杯が授与される。配分されるポイントは以下のとおり。

1位10点、2位7点、3位5点、4位3点、5位2点、6位1点

なお、ボーナス割当を利用して複数チーム出場している団体については、4人チーム戦のAチームとして登録されたチーム（とそのメンバー）の成績のみがポイント付与の対象となる。

新人王は 高橋・鴻巣・青嶋・八鍬

第50回 全日本新人選手権大会

タイトルに充実感（左から）高橋、鴻巣、青嶋、八鍬

第50回全日本新人選手権大会が11月3日（金・祝）から5日(日)にかけて、北海道・綜合レジャーサンコーボウル（公競№101－086）で開催され、181名の新人ボウラーが4部門に分かれて頂点を争った。八鍬良太（学生連合）が成年男子を制し、第46回大会での少年男子優勝と併せて2冠を獲得した。成年女子は青嶋舞（京都）が、少年男子は鴻巣翔（青森）が、少年女子は髙橋咲紀（北海道）がそれぞれ優勝を果たした。

開会式

㈱八甲　竹中専務

11月3日（金・祝）15時から開会式が執り行われた。参加団体の連盟旗が入場行進しアプローチに整列。北川薫協会会長からのあいさつを齋藤良太郎専務理事が代読し、来賓を代表して会場センター経営の㈱社八甲・竹中博文専務取締役より祝辞をいただいた。

番井選手が宣誓

競技規程説明と認証報告、審判団の紹介と進み、北海道代表の番井優人選手が力強く選手宣誓を行い、3日間の競技を開始した。

競技

少年女子

予選1回戦、工藤ひかる（北海道）が699の好発進を見せた。2位にも同じ北海道の髙橋咲紀がつけたが、61ピンと水を開けられたかたちに。2回戦は598の工藤に対し髙橋は601で、大きな変動はなし。野仲美咲(東京)が663と打ち上げて、髙橋と22ピン差まで迫ってきた。

すると3回戦、606にまとめた髙橋に対し、工藤は546で逆転を許してしまう。とはいえ2ピン差という大接戦で決勝戦に突入した。

予選からスコアの安定していた髙橋は、決勝の1ゲーム目も212。この時点で工藤に55ピン差をつけると、シリーズ599とし優勝を遂げた。

少年男子入賞者

少年女子入賞者

成年男子入賞者

成年女子入賞者

少年男子

鴻巣翔（青森）が1回戦に710をマークして首位に。2位の當山彰悟（沖縄）にいきなり62ピン差をつけた。しかし2回戦は581に留まり、683と打ち上げた中川佑斗（愛知）に逆転を許してしまう。

中川と鴻巣は5ピン差。3回戦は2人とも波のあるスコアメイクながら、鴻巣は646、中川は613にまとめた。再びトップに立った鴻巣は28ピンリードで決勝戦へ。

4位で通過した大石拓実（静岡）は1ゲーム目に268を打つと、68ピン差を一気に逆転した。すると2ゲーム目、鴻巣はお返しとばかりに266。再び32ピン差をつけて見せた。最終ゲームは2人とも203で、鴻巣の優勝が決まった。

H／G（左から）髙橋、鈴木、大河内、青嶋、近藤

成年女子

1回戦は青嶋舞（京都）の613がトップ。2位には20ピンの僅差で八木穂香（東京）がつけていたが、青嶋は2回戦1ゲーム目の265で突き放した。

しかし青嶋は3回戦で50

H／S（左から）工藤、鈴木、青嶋、近藤

2と振るわず。八木もスコアを伸ばせなかったことで何とか首位を守ったが、2位に浮上してきた桜田恵美子（青森）との差は31ピンまで縮まった。

決勝戦、1ゲーム目に234を決めた青嶋はシリーズ597にまとめた。八木はラスト2ゲームを228・236と打ち上げて逆転を狙ったが7ピン及ばず。青嶋が逃げ切り優勝を果たした。

成年男子

近藤雄太（学連）は1回戦から790のロケットスタート。太田快（長崎）、内藤慎之介（京都）も700UPしたが、7マークの大差をつけられた。2回戦も648にまとめた近藤だったが、738と打ち上げた増井陸（茨城）が38ピン差まで迫ってきた。3回戦も近藤がトップを守る一方で、2位争いは混戦。八鍬良太（学連）が735、太田が715を打ち2・3位につけると、近藤との差は2マークまで縮まっていた。

決勝戦1ゲーム目、八鍬が228を打った。近藤はスコアを落として逆転され、40ピン差をつけられてしまう。2ゲーム目には太田が八鍬と16ピン差まで追い上げてきた。勝負がかかった最終ゲームは、増井が227で迫るも、八鍬も201とし11ピン差で逃げ切った。

八鍬は第46回大会（少年男子）に続いての大会制覇となった。

鴻巣　翔	少年男子の部	
	青森県	18歳
使用ﾎﾞｰﾙ	Dare Devil Trick(15p3oz)	
公認ﾄﾞﾘﾗｰ	秋元博行　（公認No. 1388-02 ）	

髙橋咲紀	少年女子の部	
	北海道	17歳
使用ﾎﾞｰﾙ	Siege Buster(15p1oz)	
公認ﾄﾞﾘﾗｰ	鋤柄博康　（公認No. 0921-00 ）	

八鍬良太	成年男子の部	
	学生連合	21歳
使用ﾎﾞｰﾙ	Marvel Maxx LE(15p)	
公認ﾄﾞﾘﾗｰ	連保友輔　（公認No. 1574-11 ）	

青嶋　舞	成年女子の部	
	京都府	23歳
使用ﾎﾞｰﾙ	NeXXus f(P+R) Pearl(13p15oz)	
公認ﾄﾞﾘﾗｰ	高木宏彰　（公認No. 1540-23 ）	

ガイド

全日本新人選手権はその名のとおり、新人選手の登竜門として50回目を迎えた。少年男子・女子、成年男子・女子の4部門が設定され、出場資格に合致する選手が集まり優勝者を決定する。

【出場資格】

▽成年男子・女子　協会入会から3年以内（第50回大会は平成27・28・29年入会）の者。ただし、国民体育大会を含む協会主催大会において個人種目で優勝経験のある者（ジュニア時の実績は除く）と、今年度の全日本ナショナルチーム・ユースナショナルチームメンバーは参加できない。学校の卒業に伴いジュニア・高校登録・学連会員から個人正会員・実業団会員に登録変更した者は、変更時を入会初年度とみなす。

▽少年男子・女子　平成29年4月1日現在で18歳未満の者は、通算3回まで大会に参加できる。ただし、国民体育大会を含む協会主催大会において個人種目で優勝経験のある者と、今年度の全日本ナショナルチーム・ユースナショナルチームメンバーは参加できない。

【競技方法】

4部門とも、予選9ゲーム、決勝3ゲームを投球し、合計12ゲームのトータルピンで順位を決定。決勝には成年男子24名、成年女子12名、少年男子24名、少年女子12名が進出できる。

新人選手権において、成年は3年、少年は3回の上限に達する前に優勝した場合、以降同じ部門で出場することはできないが、少年の部で優勝経験のある選手が後に成年の部に出場することは可能。今大会での八鍬選手を含め、5名が少年・成年の2冠獲得を果たしている。

第50回全日本新人ボウリング選手権大会 成績表

平成29年11月3日(金)～5日(日)

参加：181名　　会　場：北海道・綜合レジャーサンコーボウル

《少年男子の部》 12G

優勝	鴻巣　翔（青森）	2,593	
準優勝	大石拓実（静岡）	2,561	
第3位	東海　純（富山）	2,523	
第4位	中川佑斗（愛知）	2,485	
第5位	嵐　健次郎（三重）	2,470	
第6位	佐藤宇宙（愛知）	2,454	
ﾊｲｹﾞｰﾑ	鈴木彪雅（東京）	269	
ﾊｲｹﾞｰﾑ	大河内吉幸（福島）	269	
ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	鈴木彪雅（東京）	750	

《少年女子の部》 12G

優勝	髙橋咲紀（北海道）	2,444	
準優勝	工藤ひかる（北海道）	2,387	
第3位	野仲美咲（東京）	2,359	
第4位	原野萌花（福岡）	2,303	
第5位	淺田杏奈（広島）	2,282	
第6位	羽田萌香（長崎）	2,271	
ﾊｲｹﾞｰﾑ	髙橋咲紀（北海道）	256	
ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	工藤ひかる（北海道）	699	

《成年男子の部》 12G

優勝	八鍬良太（学連）	2,711	
準優勝	増井　陸（茨城）	2,700	
第3位	太田　快（長崎）	2,671	
第4位	近藤雄太（学連）	2,670	
第5位	内藤慎之介（京都）	2,658	
第6位	田中智之（石川）	2,624	
ﾊｲｹﾞｰﾑ	近藤雄太（学連）	298	
ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	近藤雄太（学連）	790	

《成年女子の部》 12G

優勝	青嶋　舞（京都）	2,380	
準優勝	八木穂香（東京）	2,373	
第3位	高良綾音（学連）	2,368	
第4位	桜田恵美子（青森）	2,284	
第5位	菅原千愛（学連）	2,262	
第6位	加藤愛華（群馬）	2,180	
ﾊｲｹﾞｰﾑ	青嶋　舞（京都）	265	
ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	青嶋　舞（京都）	668	

アベックV達成 岡山商科大学

文部科学大臣杯 第55回全日本大学選手権大会

文部科学大臣杯第55回全日本大学選手権大会が11月18日㈯から20日㈪にかけて、京都・キョーイチボウル宇治（公競No.126－063）で開催された。昨年女子が優勝、男子が3位に入った岡山商科大学が、今年は男女ともに優勝。歴代4校目となるアベックVを果たし、大会史上にその名を刻んだ。

開会式

全日本学連　吉岡会長

開会式は大会初日の11月18日㈯12時50分から執り行われた。はじめに前回優勝の男子・青森中央学院大学と女子・岡山商科大学から文部科学大臣杯が返還された。

京都府連盟　田坂会長

協会副会長でもある全日本学生連合・吉岡英隆会長が大会会長としてあいさつし、来賓の（一社）京都府ボウリング連盟・田坂幾太会長より祝辞をいただいた。

全日本学連　高橋委員長

全日本学連合の高橋陸委員長が訓辞を述べ、競技規程説明・認証報告と進行。最後に、青森中央学院大学・石川新選手と岡山商科大学・原田菜津実選手が力強く選手宣誓を行い、開会式を滞りなく終了した。

宣誓する石川選手㈫と原田選手

競技

女子の部

女子入賞校

予選1回戦、岡山商科大学Aが1ゲーム目に485をマークしてシリーズ1261。連覇に向けて好発進した。2位には44ピン差で岡山商科大学Bが続いた。強豪の京都産業大学は4位からのスタートとなったが、2回戦で1242と打ち上げて2位に浮上した。しかしこの場面で岡山商科Aは446・493・471とビッグゲームを連発。リードは290ピンにまで広がった。3回戦ではスコアを落とした岡山商科A。京都産業がわずかに差を縮めてきたが、余裕で予選トップ通過を決めた。

準決勝で岡山商科Aは1211。京都産業は1165で、両者の差は再び294ピンとなった。逃げ切り濃厚となった決勝戦でも岡山商科Aは1260にまとめる好投。最終的に315ピンの大差をつけて2年連続2度目の優勝を果たした。

男子の部

男子入賞校

京都産業大学が出足好調。1162・1138と好ゲームをつなげて1回戦3284とした。2位の早稲田大学は53ピン差で追った。早稲田と91ピン差をつけられた岡山商科大学Aだったが、2回戦では上位がマイナスした一方、3121にまとめて逆転した。それだけでなく、2位の早稲田に87ピン差をつけて見せた。

ここまで安定感が光っていた岡山商科Aだが、3回戦でマイナスゲームが続いてしまった。京都産業は同じタイミングで復調して逆転、一時は70ピン差をつけた。しかし岡山商科Aが3ゲーム目に1131をたたき出すと首位を奪い返した。

準決勝でトップ2はともにアベレージを大きく下げてしまったが、岡山商科Aのトップは変わらず。このシリーズでリードは181ピンと拡大した。

決勝戦も1ゲーム目こそマイナスした岡山商科Aだったが、最後の2ゲームは1059・1044と打ち上げてフィニッシュ。昨年の女子に続くかたちで初優勝を決め、念願のアベックVも達成となった。

チームH／G、H／S（左から）岡山商科、早稲田、京都産業

個人H／G、H／S、H／Avg（左から）石本、松崎、川上、藤原、黒木

ガイド

全日本大学選手権大会は大学チーム日本一を決める舞台として55回の歴史を誇る。男子は5人チーム戦、女子は2人チーム戦を行い、それぞれの優勝チームに文部科学大臣杯が授与される。

予選9ゲーム、準決勝3ゲーム、決勝3ゲームの15ゲームを行い、トータルピンで優勝を争う。

昨年女子が初優勝を果たし、男子も3位に入賞した岡山商科大学が、今年は男女そろって優勝を決めた。佛教大学、京都産業大学、名古屋産業大学に続いて歴代4校目のアベック優勝校に名を連ねた。

パーフェクト300

石本美来選手が達成

第55回全日本大学選手権大会において、石本美来選手（岡山商科大学）が大会第5号となるパーフェクトゲームを達成、協会主催大会公認第423号パーフェクトとして認定された。

石本美来	パーフェクト 岡山商科大学
全日本ナショナルチームメンバー	20歳
使用ボール	Fame XR(15p)
公認ドリラー	松島匡紗志　（公認No. 0943-34）

文部科学大臣杯 第55回全日本大学ボウリング選手権大会 成績表

2017年11月18日（土）～20日（月）
会場：京都・キョーイチボウル宇治

男子５人チーム戦（5×15G）　岡山商科大学　初優勝

選手権校	岡山商科大学A	森本海成・川邊領治・秋山駿佑・野村経博 上原朋久・近藤雄太・與儀桐士	15,262
準優勝	千葉商科大学	川上諒・齋藤慶典・尾谷華衣利・黒木和哉 今北侑吾・木辻慧・朱時榮	14,899
第３位	早稲田大学	岸崎大知・小野在由・木村聡志・山下諄也 佐古健太郎・白間海渡・三木遼大	14,826
第４位	京都産業大学	増井孝行・寺本将聖・葛山雅人・後充人 井阪晃生・寺石遼・矢尾光	14,757
第５位	青森中央学院大学	小原栄輝・工藤陽一郎・長谷川雄政 石川新・深川広大・小野大輔	14,715
第６位	東京大学	堤真人・井之上裕樹・小田桐央拓・松崎稔矢 野崎啓史・新関倫乃亮・楠秀大	14,683
ﾁｰﾑﾊｲｹﾞｰﾑ	早稲田大学	岸崎大知・小野在由・木村聡志・山下諄也 佐古健太郎・白間海渡・三木遼大	1,170
ﾁｰﾑﾊｲｼﾘｰｽﾞ	京都産業大学	増井孝行・寺本将聖・葛山雅人・後充人 井阪晃生・寺石遼・矢尾光	3,284

個人ﾊｲｹﾞｰﾑ	松崎稔矢	（東京大学）	278
個人ﾊｲｹﾞｰﾑ	藤原智也	（岡山商科大学）	278
個人ﾊｲｹﾞｰﾑ	川上諒	（千葉商科大学）	278
個人ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	黒木和哉	（千葉商科大学）	782
個人ﾊｲｱﾍﾞﾚｰｼﾞ	藤原智也	（岡山商科大学）	230…13

女子２人チーム戦（2×15G）　岡山商科大学　2年連続2度目

選手権校	岡山商科大学A	石本美来・原田菜津実・金知我	6,227
準優勝	京都産業大学	廣瀬美咲・竹山亜希	5,912
第３位	千葉商科大学	菅原千愛・坪井美樹	5,675
ﾁｰﾑﾊｲｹﾞｰﾑ	岡山商科大学A	石本美来・原田菜津実・金知我	493
ﾁｰﾑﾊｲｼﾘｰｽﾞ	岡山商科大学A	石本美来・原田菜津実・金知我	1,410

個人ﾊｲｹﾞｰﾑ	石本美来	（岡山商科大学）	300
個人ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	石本美来	（岡山商科大学）	783
個人ﾊｲｱﾍﾞﾚｰｼﾞ	石本美来	（岡山商科大学）	222…13

泉宗 貫録の金メダル

女子オールエベンツでチーム待望の金メダル　泉宗

第19回アジアユース選手権大会が10月22日㈰から28日㈯にかけて、フィリピン・マニラで開催された。15の国と地域から20歳以下の代表選手94名が出場。日本は泉宗心音（愛媛）がオールエベンツで金メダルを獲得し、国際大会初出場のメンバーも大健闘を見せた。

日本の代表チームは、ユースの枠を超えて活躍する泉宗心音（愛媛）と、公式国際大会初出場のユースナショナルチームメンバー7名という構成。大会には20歳まで出場できるが、日本代表にはあえて高校生以下の選手たちが抜擢された。

シングルス戦

まずは女子から。チーム最年少の中学3年生、水谷秋穂（愛知）が好調なスタートを切った。前半3ゲームはすべて200UP。641とし、トップに23ピン差の3位で折り返した。

4ゲーム目、Y・S・キム（大韓民国）が249で抜け出した一方で、銀・銅メダル争いは接戦となっていた。水谷はここでスコアを落とし、3位とも4マーク差の8位に。泉宗は水谷と6ピン差で9位につけていたが、ここから巻き返した。

5ゲーム目に236をマーク。3位と15ピン差まで迫ることに成功した。最終ゲーム、3位選手は197に留まり、泉宗と2ピン差だった4位選手は245のビッグゲームを決めたが、泉宗はそれを上回る259をたたき出し3位に滑り込んだ。経験を重ねてきた泉宗の強さが発揮されての、逆転銅メダルとなった。

翌日の男子。羽ヶ﨑匠海（神奈川）が233の好ゲームでスタートし、前半の3ゲームは630で5位につけた。女子同様にトップは729と大きく抜け出したが、2位は649、15位でも611と、メダルの射程圏はあまりにも混戦だった。

後半も激しい順位移動を繰り返しながら、大集団でのメダル争いが続いた。羽ヶ﨑は4ゲーム目に210とし5位をキープ。すると5ゲーム目は244で2位に躍り出た。3位とは44ピン差をつけて迎えた最終ゲームも214にまとめ、そのまま銀メダル。デビュー戦の最初の種目で表彰台に上る快挙を果たした。

女子シングルス　銅メダルの泉宗

ダブルス戦

ダブルスは男子が先に登場。前半3ゲームのトップは1449をたき出すほどの高レベルで、日本勢は2チームとも大きく出遅れてしまった。

国体でもペアを組んだ徳久恵大・原口優馬（長崎）は後半、そのチームワークで状況を打開した。4ゲーム目に徳久が243、原口は268をマーク。この時点で3位とはまだ100ピン近い差がついていたが、あきらめずにラスト2ゲームを457・422と打ち上げて見せた。最終的に66ピン届かず6位。手応えと悔しさの両方を味わう結果となった。

女子では、藤田梨聖（千葉）と泉宗のペアは前半1207にまとめて3位につけるも、後半に入ってスコアが伸びず。水谷と坂井百望（福岡）のペアは前半出遅れたが4ゲーム目の446で3位に浮上。しかしその後が続かなかった。メダル争いに絡む場面があっただけに、こちらも悔しさが残った。

男子シングルス　羽ヶ﨑が銀メダル

女子チーム戦　粘って銅メダル

第19回アジアユースボウリング選手権大会

2017.10.22～28
参加15の国と地域　94名（男子60・女子34）　ﾌｨﾘﾋﾟﾝ・ﾏﾆﾗ　AMF-Puyat, Coronado Lanes

《男子シングルス戦》６Ｇ

優　勝	T. A. L. AL-HAKIM（ﾏﾚｰｼｱ）	1,370
準優勝	羽ヶ﨑　匠　海（日本・神奈川）	1,298
第３位	AHMED AL AWADHI（ﾊﾞｰﾚｰﾝ）	1,287
第20位	原　口　優　馬（日本・長崎）	1,183
第25位	徳　久　恵　大（日本・長崎）	1,165
第29位	林　　元　輝（日本・愛知）	1,121

《男子ダブルス戦》２×６Ｇ

優　勝	大　韓　民　国	2,698
準優勝	イ　ン　ド　ネ　シ　ア	2,639
第３位	大　韓　民　国	2,619
第６位	日　本（徳久・原口）	2,553
第13位	日　本（林・羽ヶ﨑）	2,419

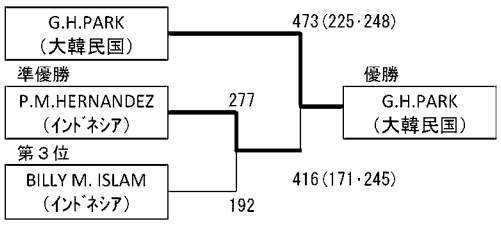
《男子４人チーム戦》４×６Ｇ

優　勝	大　韓　民　国	4,998
準優勝	バ　ー　レ　ー　ン	4,919
第３位	サ　ウ　ジ　ア　ラ　ビ　ア	4,914
第８位	日　本（羽ヶ﨑・林・徳久・原口）	4,670

《男子オールエベンツ》１８Ｇ

第１位	HAN JAE HYEON（大韓民国）	3,931
第２位	AHMED AL AWADHI（ﾊﾞｰﾚｰﾝ）	3,815
第３位	A. ALKHALEWI（ｻｳｼﾞｱﾗﾋﾞｱ）	3,804
第９位	羽ヶ﨑　匠　海（日本・神奈川）	3,685
第14位	徳　久　恵　大（日本・長崎）	3,654
第15位	原　口　優　馬（日本・長崎）	3,646
第36位	林　　元　輝（日本・愛知）	3,424

《男子マスターズ戦》



第11位	羽ヶ﨑　匠　海（日本・神奈川）	3,245（70）
第13位	原　口　優　馬（日本・長崎）	3,203（60）
第16位	徳　久　恵　大（日本・長崎）	3,175（60）

《女子シングルス戦》６Ｇ

優　勝	KIM YE SOL（大韓民国）	1,330
準優勝	NUR AMIRAH AUNI（ﾏﾚｰｼｱ）	1,321
第３位	泉　宗　心　音（日本・愛媛）	1,299
第６位	水　谷　秋　穂（日本・愛知）	1,244
第12位	藤　田　梨　聖（日本・千葉）	1,162
第25位	坂　井　百　望（日本・福岡）	1,053

《女子ダブルス戦》２×６Ｇ

優　勝	大　韓　民　国	2,530
準優勝	シ　ン　ガ　ポ　ー　ル	2,345
第３位	フ　ィ　リ　ピ　ン	2,322
第８位	日　本（水谷・坂井）	2,282
第11位	日　本（藤田・泉宗）	2,231

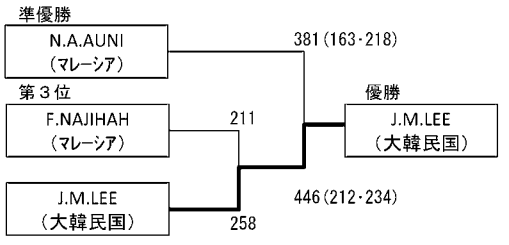
《女子４人チーム戦》４×６Ｇ

優　勝	シ　ン　ガ　ポ　ー　ル	4,745
準優勝	マ　レ　ー　シ　ア	4,687
第３位	日　本（水谷・坂井・藤田・泉宗）	4,660

《女子オールエベンツ》１８Ｇ

第１位	泉　宗　心　音（日本・愛媛）	3,714
第２位	YANG DA SOM（大韓民国）	3,678
第３位	KIM YE SOL（大韓民国）	3,626
第８位	水　谷　秋　穂（日本・愛知）	3,576
第16位	藤　田　梨　聖（日本・千葉）	3,411
第24位	坂　井　百　望（日本・福岡）	3,230

《女子マスターズ戦》



第10位	水　谷　秋　穂（日本・愛知）	3,120（90）
第12位	泉　宗　心　音（日本・愛媛）	3,088（60）
第16位	藤　田　梨　聖（日本・千葉）	2,909（90）

羽ヶ﨑匠海（神奈川・県立横浜南陵高校）
林　　元輝（愛知・一宮市立尾西第一中学校）
徳久　恵大（長崎・九州文化学園高校）
原口　優馬（長崎・県立長崎鶴洋高校）

藤田　梨聖（千葉・敬愛学園高校）
水谷　秋穂（愛知・あま市立七宝中学校）
泉宗　心音（愛媛・聖カタリナ学園高校）
坂井　百望（福岡・久留米市立久留米商業高校）

第19回 アジアユース選手権大会

チーム戦

チーム戦は前後半の3ゲームずつに分けて、2日間競技を行った。前半3ゲームを13位で折り返した男子、後半は意地をぶつけた。前半2667で抜け出した大韓民国でさえも2331とスコアを落とした中、日本は2439をマーク。シングルスを再現するようなラストの逆転劇で銅メダルを獲得した。

ルーキーメンバーも大健闘

女子は前半5位で折り返したが、3位とは138ピンの大差をつけられてしまった。翌日の後半、まず819の好ゲームで3位の韓国と69ピン差まで詰めることに成功した。2ゲーム目は733と振るわなかったが、韓国もスコアを落としたことで28ピンに。追われる韓国も最後は796にまとめてきたが、日本はこの場面で856をマークし、8位で折り返した男子、後半は意地をぶつけた。前半2667で抜け出した大韓民国でさえも2331とスコアを落とした中、日本は2439をマーク。シングルスを再現するようなラストの逆転劇で銅メダルを獲得した。

オールエベンツ

シングルス、ダブルス、チームの3種目で記録した個人スコアの合計で決まるオールエベンツでは、泉宗が1位に輝いた。チーム戦の後半を前にして、トップのD・S・ヤン（韓国）と59ピン差だった泉宗は、その韓国と日本のメダル争いの中でラストゲームに247をたたき出した。チーム戦の銅メダルを引き寄せたこのビッグスコアが決め手となって、オールエベンツも逆転で金メダルを獲得することに。ここ一番での強さが再び発揮された。

オールエベンツの上位16名がマスターズ戦に進出できる。女子は水谷も常に進出圏内の順位をキープして8位。藤田もチームの追い上げに乗って16位に食い込んだ。

男子は羽ヶ崎が9位。徳久と原口も最後の3ゲームをあきらめずに投げ抜いたことで14位・15位となり、日本は8名中6名がマスターズ出場権を得た。

マスターズ戦

オールエベンツのスコアを持ち込まず、16名が総当たり戦を行うマスターズ戦。日本勢は男子も女子も前半で出遅れてしまった。メンバー中最年少の水谷が8ゲーム中5勝を上げたが8位での折り返し。後半も4勝したが、10位となったのがチーム内最上位だった。

男女とも優勝は韓国勢で、選手層の厚さに変わりがないことを示していた。

トップアスリートへの道開拓

2017年度のジュニアジャパン選抜選手強化合宿が、11月17日(金)から19日(日)にかけて東京・シチズンボウル（公競No.113 - 113）で開催された。認定会を経て選ばれた有望選手40名が集まり、将来の日本代表やトップアスリートを目指すための強化メニューに取り組んだ。

▷北地区　7月28日(金)～29日(土)
福島県・ボウルアピア郡山
（公競No.107 - 016）
▷西地区　8月4日(金)～5日(土)
福岡・博多スターレーン
（公競No.140 - 016）
▷中地区　8月6日(日)～7日(月)
大阪・イーグルボウル
（公競No.127 - 001）
▷東地区　8月8日(火)～9日(水)
東京・東大和グランドボウル
（公競No.113 - 112）

ジュニアジャパン選抜選手強化合宿

ジュニアジャパン制度では、夏休み中に全国4会場で「ジュニアジャパン強化選手認定会」を実施して「強化選手」を認定。強化選手の中から選抜された40名の選手が「ジュニアジャパン選抜選手強化合宿」に参加するという2つのイベントで成り立っている。

今年度の認定会は上記の日程・会場で開催され、総勢94名の選手が全国から参加した。

認定会については、学校等で受けた新体力テストの記録と競技実績に基準を設け、強化委員会が選考し参加者を決定。また今年度から年齢によりU - 15（中学生）、U - 18（高校生）の2カテゴリーが設けられた。2日間で合計8時間半の指導会・競技会において有力選手を吟味し、選抜選手強化合宿の参加者が選ばれた。

その認定会から3ヵ月を経て、強化合宿の日が到来。40名の選手が東京に集まった。その内訳は、U - 15男子／女子、U - 18男子／女子それぞれ10名ずつ。各世代の少数精鋭が切磋琢磨する3日間が始まった。

一斉にシャドウボウリング

指導はナショナルチーム下地監督

開講式では初めに、齋藤良太郎専務理事、佐藤直亮常務理事、砂古口信夫強化委員長と、全日本ナショナルチーム監督の下地賀寿守競技力向上部会長があいさつ。ジュニアジャパンのメンバーもナショナルチームにつながる一員として自覚し行動してほしいと激励した。そして強化選手の認定証とワッペンを授与し、今年のユニフォームを一人ひとりに手渡した。続いてオリエンテーションでは、各選手の競技への取り組み状況調査票と、ボウリングの基礎知識テストを実施してから、実技の練習に入った。

下地監督と競技力向上部会の山下知且部会員、石嶺可奈子部会員がボックスに入り、各選手の現況を見ながら指導。シャドウボウリングや助走を減らしての投球で基礎が身についているかを確認した。

2日目はU - 15／U - 18で分かれての講習に続いて、砂古口強化委員長の講義とトレーニング実習を行い、午後は投球実技の実習というスケジュール。最終日には記録会としてスコアをとり、3日間の成果を測った。

参加選手には認定証とユニフォームを授与

ジュニアジャパン強化選手認定会（地域における有望選手発掘のためのジュニア合宿）は、スポーツ振興くじ（toto）の助成を受けて実施しています。

ジュニアジャパン選抜選手強化合宿は、JOC選手強化NF事業として実施しています。

スポーツくじ
toto FOR ALL SPORTS OF JAPAN
BIG

記録だより

第41回関西ジュニア選手権大会　6月18日(日)　なわてボウル（公競No.127 - 021）

【シングルス戦】

▽高校生男子（3G）
①井野開斗（和歌山）6999
②土居下雄平（大阪）6671
③川崎未来（和歌山）6667
④上村壮太（和歌山）6654
⑤瀧谷真人（和歌山）6652
⑥立花和貴（兵庫）6646
▽高校生女子（3G）
①松永華穂（奈良）6719
②森下美優（京都）6635
③安田明香里（京都）6621
④前土佐凪（奈良）6619
⑤伊勢川華愛（和歌山）6615
⑥箸井飛鳥（滋賀）6606
▽中学生男子（3G）
①淺川啓大（兵庫）6603
②諏訪琉星（大阪）6555
③小松侑誠（兵庫）6445
④甘利紘大（大阪）6211
⑤藤田太幹（兵庫）6035
⑥村野渉吏（大阪）5921
▽中学生女子（3G）
①石本恵梨奈（大阪）6328
②和歌山A（坂原・井野）1250
③兵庫（立花・西本）1230
④和歌山B（竹田・上村）1225
⑤京都A（森下・安田）1201
⑥和歌山C（川崎・瀧谷）1174
▽中学生（2×3G）
①大阪A（石本・緒方）1283
②京都C（森下・畑）1235
③兵庫B（立花・松本）1227
④兵庫A（淺川・小松）1221
⑤滋賀（田村・谷）1129
⑥大阪C（村野・谷口）1124
【個人総合】
▽高校生男子（9G）
①立花和貴（兵庫）1936
②井野開斗（和歌山）1934
③土居下雄平（大阪）1925
④川崎未来（和歌山）1903
⑤坂原慎平（和歌山）1846
⑥竹田航（和歌山）1837
▽高校生女子（9G）
①伊勢川華愛（和歌山）2057
②安田明香里（京都）1895
③山本楽那（和歌山）1873
④松永華穂（奈良）1824
⑤森下美優（京都）1821
⑥前土佐凪（奈良）1799
▽中学生男子（3G）
①淺川啓大（兵庫）1982
②小松侑誠（兵庫）1910
③諏訪琉星（大阪）1903
④藤田太幹（兵庫）1825
⑤立花尚貴（兵庫）1770
⑥寺地騎士（和歌山）1723
▽中学生女子（3G）
①石本恵梨奈（大阪）1980
②畑紗矢香（京都）1781
③立花沙貴（兵庫）1760
④緒方美空（大阪）1757
⑤田村唯（滋賀）1726
⑥森下結（京都）1714
⑦石田万音（兵庫）1056
⑧坂田望実（奈良）1037
⑨立花仁貴（兵庫）1032
⑩東隆輝（大阪）968
⑪谷口美優（大阪）964
⑫森恵美（奈良）947
【2人チーム戦】
▽高校生（2×3G）
①和歌山E（伊勢川・山本）4452
②和歌山A（坂原・井野）4439
③愛知B（今枝・村瀬）2435
④富山（伊藤・東海）2401
⑤中京（岐阜／村瀬・村瀬）2368
⑥沖縄A（登川・中里）2256
▽個人戦（6G）
①新舎拓巳（岡山・岡山理科大学附属高校）1288
②山本青空（石川・藤花学園尾山台高校）1252
③村瀬大地（岐阜・中京高校）1189
④扇健次郎（三重・県立四日市商業高校）1188
⑤村瀬大河（岐阜・中京高校）1188
⑥村瀬竣哉（愛知・県立一宮北高校）1167
▽個人決勝戦（トーナメント）
①西山響（青森・八戸工業大学第一高校）
②橋本龍徳（静岡・沼津市立沼津高校）
③熊谷涼（愛知・県立豊橋南高校）
④伊藤拓摩（富山・富山国際大学付属高校）
⑤扇健次郎（三重・県立四日市商業高校）
⑥村瀬竣哉（愛知・県立一宮北高校）
【女子の部】
▽2人チーム戦（2×6G）
①沖縄（太・與儀）2106
②メイクB（小笠原・大林）2034
③那覇商業（沖縄／波平・大城）2028
④岐阜（堀口・佐藤）1959
⑤メイクA（山崎・丸本）1951
⑥岡山（吉元・田中）1950
▽個人戦（6G）
①大林令奈（岡山・岡山商科大学附属高校）1274
②メイクB（小笠原・大林）2034
③那覇商業（沖縄／波平・大城）2028
④岐阜（堀口・佐藤）1959
⑤メイクA（山崎・丸本）1951
⑥岡山（吉元・田中）1950
▽個人戦（6G）
①大林令奈（岡山・岡山商科大学附属高校）1274
②丸本美佳（三重・県立亀山高校）1203
③大城美幸（沖縄・県立那覇商業高校）1098
④吉元舞依子（岡山・県立林野高校）1076
⑤森下美優（京都・洛陽総合高校）1054
⑥太琳華（沖縄・県立中部商業高校）1031
▽個人決勝戦（トーナメント）
①與儀楓（沖縄・県立美里工業高校）
②森下美優（京都・洛陽総合高校）
③丸本美佳（三重・県立亀山高校）
④端保優寧（石川・藤花学園尾山台高校）
⑤大城美幸（沖縄・県立那覇商業高校）
⑥大林令奈（岡山・岡山商科大学附属高校）

第39回東北社会人選手権大会　8月19日(土)～20日(日)　盛岡スターレーン（公競No.103 - 017）

▽混合3人チーム戦（3×9G）
①宮城A（千葉・横内・早坂）5635
②岩手A（菅原・小笠原・小笠原）5466
③岩手D（佐藤・佐藤・木村）5313
④青森E（古川・中村・小比類巻）5296
⑤青森F（小笠原・菊田・幸林）5275
⑥岩手I（薄衣・大平・畑福）5241
▽男子選手権者決定戦（12G）
①千葉達也（宮城）2500
②早坂友伸（宮城）2463
③小比類巻正昭（青森）2442
④佐藤信也（岩手）2428
⑤小野寺亮太（岩手）2405
⑥中田明（福島）2399
▽女子選手権者決定戦（12G）
①千葉久恵（秋田）2496
②菅原要子（岩手）2495
③佐藤由佳子（秋田）2450
④横内帆波（宮城）2433
⑤小笠原由美子（岩手）2413
⑥菊田多津子（青森）2412

第40回北海道シニアチーム選手権大会　7月22日(土)～23日(日)　ローヤルボウル（公競No.101 - 092）

▽3人チーム戦（3×12G）
①北見（今野・上原・稲田）7907
②深川（松田・岡原・山崎）7677
③紋別（得能・津山・鎌田）7385
④魚雅章（石川・北國銀行）1428

第34回関東地区実業団選手権大会　7月23日(日)　川崎グランドボウル（公競No.114 - 023）

▽3人チーム戦（3×12G）
①神奈川県実業団OBクラブA（神奈川／依藤・大島・小玉）7573
②JFE東日本（千葉／田村・小池・佐藤）7472
③松本機工（埼玉／山越・佐渡山・木村）7417
④新日鐵住金・君津A（千葉／矢野・山口・栗原）7364
⑤東京都実業団OBクラブB（東京／田倉・市川・佐藤）7357
⑥伯瑛設計B（神奈川／杉崎・長谷川・馬場）7298
▽個人（9G）
①杉崎優（神奈川・伯瑛設計B）1989
②春田恒平（茨城・日立製作所）1943
③小玉眞（神奈川・神奈川県実業団OBクラブA）1931

第3回北信越地区実業団競技大会　7月29日(土)　ジャンボボール（公競No.119 - 002）

▽個人戦（6G）
①田中椋也（石川・北陸電力石川）1527
②今川徹（石川・石川県教職員）1484
③越前哲男（富山・YKK）1462
④田中智之（石川・久世ベローズ工業所）1442
⑤宮崎善一（富山・不二越）1429
⑥魚雅章（石川・北國銀行）1428

第44回北海道クラブ対抗選手権大会　8月6日(日)　釧路パレスボウル（公競No.101 - 012）

▽5人チーム戦（ベーカー方式4G）
①北見B（福園・植松・田中・近藤・稲田）8533
②厚別（片山・保木・五十嵐・保木・水上）7983
③北見A（荒谷・沖崎・大村・今野・松浦）7740

第18回全九州新人選手権大会　8月6日(日)　パスカワールド宇土店（公競No.143 - 058）

▽成年の部（9G）
①太田快（長崎）2133
②高倉未来（福岡）2003
③高木遼介（福岡）1943
④日下部陵（福岡）1915
⑤長尾健汰（福岡）1910
⑥園田タツコ（熊本）1909
▽少年の部（9G）
①八木彩夏（熊本）2133
②岡本龍二（福岡）2090
③千原愛美（熊本）2065
④福田柊友（長崎）2015
⑤北谷蓮斗（福岡）1996
⑥前田一樹（熊本）1989

高体連加盟校全国選抜大会兼第32回東海北信越高等学校選手権大会　8月8日(火)～9日(水)　コスモボウル羽島（公競No.124 - 034）

【男子の部】
▽2人チーム戦（2×6G）
①愛知A（東・熊谷）2466
②静岡（山梨・橋本）2452
③愛知B（今枝・村瀬）2435
④富山（伊藤・東海）2401
⑤中京（岐阜／村瀬・村瀬）2368
⑥沖縄A（登川・中里）2256
▽個人戦（6G）
①新舎拓巳（岡山・岡山理科大学附属高校）1288
②山本青空（石川・藤花学園尾山台高校）1252
③村瀬大地（岐阜・中京高校）1189
④扇健次郎（三重・県立四日市商業高校）1188
⑤村瀬大河（岐阜・中京高校）1188
⑥村瀬竣哉（愛知・県立一宮北高校）1167
▽個人決勝戦（トーナメント）
①西山響（青森・八戸工業大学第一高校）
②橋本龍徳（静岡・沼津市立沼津高校）
③熊谷涼（愛知・県立豊橋南高校）
④伊藤拓摩（富山・富山国際大学付属高校）
⑤扇健次郎（三重・県立四日市商業高校）
⑥村瀬竣哉（愛知・県立一宮北高校）
【女子の部】
▽2人チーム戦（2×6G）
①沖縄（太・與儀）2106
②メイクB（小笠原・大林）2034
③那覇商業（沖縄／波平・大城）2028
④岐阜（堀口・佐藤）1959
⑤メイクA（山崎・丸本）1951
⑥岡山（吉元・田中）1950
▽個人戦（6G）
①大林令奈（岡山・岡山商科大学附属高校）1274
②丸本美佳（三重・県立亀山高校）1203
③大城美幸（沖縄・県立那覇商業高校）1098
④吉元舞依子（岡山・県立林野高校）1076
⑤森下美優（京都・洛陽総合高校）1054
⑥太琳華（沖縄・県立中部商業高校）1031
▽個人決勝戦（トーナメント）
①與儀楓（沖縄・県立美里工業高校）
②森下美優（京都・洛陽総合高校）
③丸本美佳（三重・県立亀山高校）
④端保優寧（石川・藤花学園尾山台高校）
⑤大城美幸（沖縄・県立那覇商業高校）
⑥大林令奈（岡山・岡山商科大学附属高校）

第39回東北社会人選手権大会　8月19日(土)～20日(日)　盛岡スターレーン（公競No.103 - 017）

▽混合3人チーム戦（3×9G）
①宮城A（千葉・横内・早坂）5635
②岩手A（菅原・小笠原・小笠原）5466
③岩手D（佐藤・佐藤・木村）5313
④青森E（古川・中村・小比類巻）5296
⑤青森F（小笠原・菊田・幸林）5275
⑥岩手I（薄衣・大平・畑福）5241
▽男子選手権者決定戦（12G）
①千葉達也（宮城）2500
②早坂友伸（宮城）2463
③小比類巻正昭（青森）2442
④佐藤信也（岩手）2428
⑤小野寺亮太（岩手）2405
⑥中田明（福島）2399
▽女子選手権者決定戦（12G）
①千葉久恵（秋田）2496
②菅原要子（岩手）2495
③佐藤由佳子（秋田）2450
④横内帆波（宮城）2433
⑤小笠原由美子（岩手）2413
⑥菊田多津子（青森）2412

TOP BOWLER

vol.118

最初から優勝目指してた

いりえ・ななみ　20歳　朝日大学　全日本新人選手権（2012年）少年女子の部優勝など、ジュニア時代から全国区で活躍。2015年に全日本ナショナルチーム入りし、全国都道府県対抗選手権（2016年）、全日本選手権（2017年）ともに準優勝してトップ選手の一員に。今年の全国都道府県対抗ではリベンジに成功、世界選手権大会男女大会2017に日本代表として参戦中。

都道府県対抗選手権、予選トップ通過から優勝を決めて、どんな思いでしたか？「昨年が準優勝でとても悔しい思いをしていたので、最初から優勝を目指してました。なので、優勝が決まった時はとても嬉しかったです。優勝が決まった時お父さんが横で喜んでいてくれるのを見たらもっと嬉しくなりました。」

３月の全日本など、大舞台での好成績が続いていますが、その基となっているのは？「日々の練習とトレーニングが自信へと繋がっているのだと思います。あと、ボウリングは地域の大会で負けたのが悔しくて始めたのですが、『初心忘れるべからず』がモットーなので…」

世界選手権への出場も叶えました。今後の目標は？「国内大会では常に優勝を目指し、国際大会ではメダル獲得できるよう技術向上や精神力が強い選手になりたいです。」

入江菜々美さん（岐阜県）

速報！ 世界選手権で 今井双葉 金メダル獲得

11月24日㈮からアメリカ・ラスベガスで開催の世界選手権男女大会2017。女子シングルス戦で今井双葉選手（熊本・熊本学園大学）が金メダルを獲得しました。

予選を2位で通過した今井選手は、3位決定戦で接戦をものにすると、優勝決定戦も落ち着いた試合運びで見事に勝利。世界選手権の女子シングルス戦としては、日本勢初めての金メダル獲得となりました。

また男子ダブルス戦では、宮澤拓哉選手（群馬・上武大学）と幸喜将太選手（沖縄・㈱エナジックインターナショナル）のペアが銅メダル。予選を1位で通過すると、3位決定戦では惜しくも敗れましたが、2人とも初出場にして表彰台に立つ活躍でした。

大会は12月4日㈪まで行われます。

宮澤&幸喜 銅メダル

We are Team JAPAN ナショナルチーム通信

第40回 ジャパンオープンボウリング 優勝！安里秀策

【写真提供：JPBA】

第40回ジャパンオープンボウリング選手権が11月2日㈭から5日㈰にかけて、愛知・稲沢グランドボウル（公競No.122・064）で開催されました。選手合計1248名が参加した巨大プロアマ大会で、今年もナショナルチームメンバーが好成績を収めました。

男子のチャンピオンを決めるマスターズ戦、8名による決勝ダブルエリミネーションに安里秀策選手（和歌山・和歌山県ボウリング連盟）は1位で進出を果たしました。敗者復活も許される2ゲームマッチのトーナメント戦で、安里秀策選手は1敗もせずに頂点へ。大会史上5人目のアマチュア優勝者となりました。

女子クィーンズ戦決勝には石本美来選手（学連・岡山商科大学）と佐藤悠里選手（神奈川・㈱プロショップKINTA）が進出。ともに優勝には届きませんでしたが、6位の石本選手がベストアマとなりました。女子は松永裕美プロが優勝を果たしました。

石本美来がベストアマに

オリンピック有望選手研修会に4名参加

JOCが毎年認定している「オリンピック有望選手」に選ばれた全日本ユースナショナルチームメンバー4名が、平成29年度JOCオリンピック有望選手研修会に参加しました。

参加したのは藤田梨聖（千葉・敬愛学園高校）、水谷秋穂（愛知・あま市立七宝中学校）、原口優馬（長崎・県立長崎鶴洋高校）、徳久恵大（長崎・九州文化学園高校）の4名。研修会は11月25日㈯・26日㈰の2日間、東京・味の素ナショナルトレーニングセンターで行われ、オリンピックなど国際の舞台に立つにふさわしいアスリートとなるための様々なプログラムを体験しました。

（左から）原口、藤田、水谷、徳久

第50回 全日本実業団選手権大会

北陸電力石川が初優勝

第50回全日本実業団選手権大会が11月24日㈮から26日㈰にかけて、静岡・浜松毎日ボウル（公競No.121・065）で開催されました。50回の節目にふさわしい大接戦の末、北陸電力石川（石川）が初優勝を果たしました。

2位で決勝進出した北陸電力石川は決勝1ゲーム目に首位を奪うと、2ゲーム目で前回優勝のトヨタ自動車に並ばれるも、最後は18ピン差で振り切りました。

【詳細は次号】